

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	気持ちの良い学校生活を作ろう（児童） 基礎・基本の定着（学習、生活）（職員）
目標（評価規準）	学習面における基礎・基本、生活面における基本的生活習慣の定着を進める	
重点に係る現状 設定理由	学びにおいては、四則計算や文字やことばの獲得、生活面においては、自分のことを自分ですることやあいさつや礼儀など基礎・基本を身につけることが、豊かな成長の基盤になる。この点が定着していないことにより自信が持てていない児童が見受けられる。より安定したものにしていくことにより、主体的に物事に取り組む意欲につなげていきたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面における基礎・基本については、定着が見られるとの捉えと、課題として意識すべきとの捉えの両面がある。 ・基本的生活習慣については、概ね定着が進んでいると捉えている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面における基礎・基本については、多くの保護者、児童共に定着が進んでいると捉えているが、一部は十分でないと感じている。 ・基本的生活習慣については、多くの保護者、児童共に全体的には定着が進んでいると捉えているが、一部は十分ではないと感じている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で、学習面の基礎・基本の定着にむらがある。基礎・基本の素地は、特に低学年での取り組みが重要であることから、低学年時における効果的な指導について研究を深めるとともに、各学年で定着を促すためのトレーニング的なアプローチについても積極的に取り入れていく必要がある。また、覚えたことを忘れないように活用できる機会を意識した取り組みも大切である。 ・基本的生活習慣は、特に学校生活において定着が進んでいるが、家庭での姿とのギャップがある可能性もあることから、家庭との連携を含め児童自ら生活全般について考えられるような働きかけをしていく必要がある。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の基盤となる基礎・基本の定着に向けて工夫をしていってほしい。 ・基本的生活習慣については、学校での様子と家庭での様子が共有されることで、児童の意欲が高まるような取り組みの工夫をしていってほしい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の基礎・基本の定着に向けては、引き続き本校の課題として取り組みを強化していく。 ・基本的生活習慣の定着に向けては、家庭との連携を含め児童が主体的に自らの生活を考え、コントロールできるような指導の工夫をしていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	がんばる気持ちや行動を認め合おう（児童） 安心できる学びの環境づくり（職員）
目標（評価規準）	集団活動による対人関係の向上をめざす	
重点に係る現状 設定理由	日常的に授業や生活の中での小さな挑戦に対する評価が児童の次の自信や意欲につながる。互いを認め思いやることの価値とそのための環境づくりにより、集団の力と個の成長の相互作用により充実感、満足感などを実感させていきたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、全体的に楽しく学校に通っていると捉えている。 人と関わる力については、概ね身についてきていると捉えている。 集団と関わる力については、概ね身についてきていると捉えている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には児童、保護者共に楽しく学校に通っていると捉えているが、一部からは不安を抱えている様子が表れている。 人と関わる力、集団とか関わる力については、多くの児童、保護者が概ね身についてきていると捉えており、特に集団とかかわる力が身についていると捉えている割合が多い。ただし、どちらも一部は十分でないと感じている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、児童が意欲的に物事に取り組み学校生活を楽しく送っている様子が伝わってきており、基本的には現在の教育活動を継続させていく方向でよいと考える。 小規模である本校の特徴から、学級内にとどまらない多様な人間関係の構築や協力体験などを引き続き積極的に取り入れていく必要がある。 特に、体験活動を多く取り入れた今年度の教育活動の中で児童は、体で感じることと連動する学びを多く味わうことができた。体験と知識が結びつくような学習は児童にとって興味を持ちやすいことから、本校の小規模であることの利点を活かした全員が体験できる活動を学びに取り入れていくことを今後も大切にしていきたい。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 児童が楽しく学校に通っている様子が伝わってくる。 小規模の学校ならではの職員の細かい指導が見て取れる。 不安を抱えた児童への対応の工夫を進めてもらいたい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、人とかかわる力、集団とかかわる力の醸成に努める。 特に、多様な人間関係、協力を体験できるような取り組みを積極的に行う。 児童が体で感じることと知識を得ることがつながっていくような取り組みをさらに進める。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	本気で勉強しよう（児童） 意欲を膨らませる授業（職員）
目標（評価規準）	やらされ感ではない、主体的に取り組む授業、学習の実現をめざす。	
重点に係る現状 設定理由	これまで主体性の捉えが漠然としあいまいであった。今年度は、職員全体で整理し、目指す具体的な児童の姿を共有して取り組んでいきたい。基礎・基本の定着等トレーニング的な学習方法であったり、思考・判断・表現の力を育てるための教員の関わり方などについて理解を深め、児童の意欲を引き出していきたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲については、向上しているものの十分ではないと捉えている。 ・主体性については、課題があると捉えている。 ・知識・技能及び思考力・判断力・表現力の育成には課題があると捉えている。 ・授業力の向上については、概ね取り組みが進んでいるが一部課題があるととらえている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・特に児童アンケートからは、授業に意欲的に取り組んでいる様子が感じられるが、保護者アンケートからは学ぶ意欲に課題があるととらえている割合が一定数ある。 ・主体性については、多くの児童、保護者が概ね身についてきていると捉えているが、一部は十分でないと感じている。 ・わかりやすい授業については、多くの児童、保護者が概ねわかりやすいと感じているが、一部はそう思わないと感じている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、特に児童の主体性について職員で考えを深めた。そのことにより、これまで以上に意識した取り組みや児童の様子を把握を行うことができた。この意識を次の取り組みにつなげ、児童の活動がやらされ感ではなく、主体性が少しずつでも定着していくような環境を作っていきたい。 ・職員が観点別評価の研修を行ったことで、評価の精度が高まった。これに合わせて、今後さらに指導の見直しの取り組みを進めていく必要性を感じている。児童に思考力・判断力・表現力や知識・技能の力を身につけさせていくための具体的な取り組みを充実させていく必要がある。 ・児童が主体的に学ぶ力を身に着けることで、様々なチャレンジへの意欲が高まっていくような流れを作っていきたい。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を勉強に向かせるのはいつの時代も難しいが、工夫を続けてもらいたい。 ・社会に出て役に立つと思えるような勉強を教えてもらいたい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性の定着に向けた取り組みを継続する。 ・指導と評価の一体化についての研究を進め授業の質を向上させる。 ・社会とつながる学びについてより実践を重ねる。